

生駒北小中学校の成果と課題 及び小中一貫教育充実のための取組

○成果について

- ・小中学校 9 年間の教育課程を統一した形式で整えたため、教科毎の教育が見通しやすくなった。特に乗り入れ授業を行っている算数・数学、音楽、図工・美術、体育、書写などの指導において、系統性を教員が意識することにつながった。
- ・乗り入れ授業の実施により、書写や図工といった専門性の必要な教科で児童の技能が高まっている。
- ・学校行事を合同で実施することで、子どもが幅広い人間関係を作ることができたと思われる。中学生が小学生に優しく声をかける姿、下級生から格好良く見られたいという中学生の自尊心の醸成が感じられる。
- ・学校生活についての満足度だが、「小中一貫教育を実施したこの 1 年間の学校行事は充実していた」と考える児童が 85.1%で、昨年度末の 79.4%を上回っている。保護者においても 84.7%がそのように考えている。
- ・生徒指導における小中間の状況把握が常に行われる状況が生まれ、日々連携がスムーズに行われるようになり早期対応、予防措置につながっている。

○課題について

- (1) 小中体制のすべてをすり合わせる事が難しく、教職員の意思疎通を図る組織マネジメントを行う必要がある。
- (2) 時間割において、乗り入れ授業や小中共通の校時表で活動させる関係上、時間割の変更に制約が加わる。
- (3) 小学校高学年における乗り入れ授業の成果は、すぐに点数として現れるものではなく、小学校を順次卒業していく児童が 3 年間の中学校の課程を修了する時点での評価・検証が必要である。
- (4) 開かれた学校として地域の活性化につながる役割を果たす必要がある。
- (5) 小学校高学年に対して部活動の実施が行えていない。

○課題解決に向けた取組について

(1) 教職員の意思疎通を図る取組

- ・月に一度の小中合同職員会議を実施する。
- ・小中合同の分掌組織をつくり、コーディネーター2名が調整を実施する。

(2) 時間割編成上の工夫

- ・外国語活動の実施により、小学3年生は週28時間、4, 5, 6年生は週29時間の授業を実施する。

(小学5, 6年生では外国語(英語)活動を年間70時間実施)

・中学校から小学校へ国語科からは小学3年生から6年生の書写の指導、美術科からは小学4年生から6年生の図画・工作の教科指導、数学科・英語科・体育科・家庭科からは、小学5・6年にT・T指導の形態で乗り入れ授業を実施している。また小学校から中学校へは音楽科で乗り入れを行う。

・水曜日の5限目を9学年統一して道徳の授業とし、全校の生徒・児童の生活に根ざした道徳教育を推進する。

・入学式・始業式・終業式や運動会などの学校行事を小中連携して実施する。

(3) 学力向上に向けた取組

・中学校の定期テストに合わせ、小学校も家庭学習に力を入れる期間(トライウィーク)を設定し、自主学習を推進する。

・専門性を生かした教育として小学校に一部教科担任制を取り入れ、書写、算数・数学、英語、音楽、図工・美術などの教科で乗り入れ授業を実施する。

・異学年交流、特に小中での交流学习を推進する。

(4) 地域の活性化に向けた取組

・会議室を老人会に開放し、交流の場とする。

(5) 小中合同の部活動実施に向けた取組

・小学校の音楽クラブと中学校の吹奏楽部が合同でミニコンサートを開催する。

(6) その他の取組

・全職員が児童生徒双方に生活指導や安全指導を実施する。

・家庭での読書活動を推進する取り組みを学校司書の協力を得ながら推進する。

・和室を活用した茶道教室の実施とICTを活用した授業の推進・改善に努める。